

授業科目	授業番号： 100			担当者	木戸 裕子
	日本文学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに移行するためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなる基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，1. 古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 日本文学に関する基礎的な知識，変体仮名の読み方を習得する。</p> <p>演習や卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸）</p> <p>(2) プリント（担当者：竹本）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い，ノートを取り方。</p> <p>第 2回 古典文学を学ぶとは，仮名史について：くずし字の読み方 1</p> <p>第 3回 文献学（写本と板本），書誌学について：くずし字の読み方 2</p> <p>第 4回 古典の季節観と暦：くずし字の読み方 3</p> <p>第 5回 古典文学研究の方法 1：くずし字小テスト</p> <p>第 6回 古典文学研究の方法 2：くずし字の読み方 4</p> <p>第 7回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方 5</p> <p>第 8回 総括 1：前半のまとめ</p> <p>第 9回 近代文学を学ぶとは：文学理論について</p> <p>第 10回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて</p> <p>第 11回 「作者」とは何か：作者/作品/テキストについて</p> <p>第 12回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて</p> <p>第 13回 「物語」とは何か：物語の構造について</p> <p>第 14回 論文の書き方</p> <p>第 15回 総括 2：後半のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業で指示する課題など。				
成績評価の方法	授業で指示する課題など。				
実務経験について	なし				

(注)教職必修

授業科目	授業番号： 101			担当者	楊 虹
	言語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語と社会や文化とのかかわりを考えながら言語学を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、言語学を社会や文化とのかかわりについて考えながら学ぶ。主に語用論を中心に言葉がどのように使われているかについて、関連する理論と実践を学ぶ。さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2回 言葉を使って何かをする</p> <p>第 3回 発話行為論</p> <p>第 4回 発話機能と語学教育</p> <p>第 5回 協調の原理と4つの公理（1）</p> <p>第 6回 協調の原理と4つの公理（2）</p> <p>第 7回 ポライトネスとフェイス（1）</p> <p>第 8回 ポライトネスとフェイス（2）</p> <p>第 9回 日常会話の仕組み（1）話者交替</p> <p>第 10回 日常会話の仕組み（2）対になる発話</p> <p>第 11回 日常会話の仕組み（3）電話とSNS</p> <p>第 12回 言語コミュニケーションと社会：対人関係</p> <p>第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差</p> <p>第 14回 グループワーク</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	言葉の使い方や会話の仕組みを分析する課題を出す。				
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び課題：50%，期末発表とレポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 102			担当者	小亀 拓也
	日本語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語の各研究分野（音声・音韻，文字・表記，語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】日本語学の基本的な考え方を身につけ，身の回りの言語現象について，的確に表現できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』（第2版）三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官，音声記号</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音，母音の無声化，促音化</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音，調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻，音素と異音</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布，条件異音と自由異音，特殊音素</p> <p>第 7回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第 8回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント，イントネーション，プロミネンス</p> <p>第 9回 中間試験</p> <p>第 10回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色</p> <p>第 11回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表，字音と字訓，漢字の成り立ち</p> <p>第 12回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名，片仮名，ローマ字</p> <p>第 13回 現代日本語の語彙 1：語と語彙，語構成</p> <p>第 14回 現代日本語の語彙 2：語種（和語，漢語，外来語，混種語）</p> <p>第 15回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性，理解語彙と使用語彙）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また，毎授業冒頭に復習小テストを行うため，復習が必要である。				
成績評価の方法	小テストの成績（25%），中間試験の成績（25%），定期試験（持ち込み可）の成績（50%）				
実務経験について	なし				

(注)教職必修

授業科目	授業番号： 103			担当者	楊 虹
	日本語教育概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第 6回 教材分析</p> <p>第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 8回 教授法②：授業見学</p> <p>第 9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第 10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第 11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第 14回 模擬授業の準備</p> <p>第 15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜予習復習の課題を出すので、調べたり考えたりして積極的に取り組む必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 104			担当者	小亀 拓也
	日本語史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分</p> <p>第 2回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則</p> <p>第 3回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語</p> <p>第 4回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生</p> <p>第 5回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用</p> <p>第 6回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化</p> <p>第 7回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混淆文，直音と拗音，開合，連声</p> <p>第 8回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊</p> <p>第 9回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化</p> <p>第 10回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達</p> <p>第 11回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第 12回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字</p> <p>第 13回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化</p> <p>第 14回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用</p> <p>第 15回 日本語学史</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通してここと。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）				
実務経験について	なし				

(注)教職必修

授業科目	授業番号： 105			担当者	小亀 拓也
	日本文法論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語の文法について学ぶ。</p> <p>【概要】現代日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】現代日本語文法の基礎的な知識を身につけ、身の回りの言語現象について分析できるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：文とは、文法とは</p> <p>第 2回 品詞論 1：名詞（普通名詞・固有名詞，代名詞，形式名詞）</p> <p>第 3回 品詞論 2：動詞（活用，自動詞・他動詞，意志動詞・無意志動詞，本動詞・補助動詞）</p> <p>第 4回 品詞論 3：形容詞，副詞，連体詞，接続詞，感動詞</p> <p>第 5回 品詞論 4：助詞（格助詞，副助詞，係助詞，接続助詞，終助詞）</p> <p>第 6回 品詞論 5：復習とまとめ</p> <p>第 7回 構文論 1：文の種類</p> <p>第 8回 構文論 2：ヴォイス（受身，使役）</p> <p>第 9回 構文論 3：アスペクト</p> <p>第 10回 構文論 4：テンス</p> <p>第 11回 構文論 5：モダリティ</p> <p>第 12回 構文論 6：連体修飾</p> <p>第 13回 構文論 7：条件節</p> <p>第 14回 構文論 8：「は」と「が」</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 （予習・復習）	予習：次回授業までに配布された文献を読んてくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（70%），小テスト/授業内課題の成績（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 106			担当者	小亀 拓也
	日本語学講義			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題についてより専門的な見地から分析・考察する。</p> <p>【概要】日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【到達目標】日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ</p> <p>第 2回 音の作り方1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション</p> <p>第 3回 音の作り方2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論</p> <p>第 4回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析</p> <p>第 5回 意味の世界1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー</p> <p>第 6回 意味の世界2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ</p> <p>第 7回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞</p> <p>第 8回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法）</p> <p>第 9回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性</p> <p>第 10回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析</p> <p>第 11回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用</p> <p>第 12回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画</p> <p>第 13回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動</p> <p>第 14回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んてくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績及び授業での発言内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 107			担当者	小亀 拓也
	日本語学講読 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか、具体的にはどのような現象を対象とするのか、観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか、といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】普段何気なく使用している「日本語」という言語について、客観的に眺めることができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞</p> <p>第 2回 意味1：2つのカテゴリー観について</p> <p>第 3回 意味2：意味の拡張，同音異義と多義</p> <p>第 4回 意味3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩）</p> <p>第 5回 意味4：「意義・言葉・経験」（渡辺実）</p> <p>第 6回 意味5：日本語の助詞・助動詞の多義</p> <p>第 7回 日本語と他言語との比較（言語類型論）</p> <p>第 8回 音声と文字：文字と標記の不一致，長音</p> <p>第 9回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し</p> <p>第 10回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略</p> <p>第 11回 話し言葉と書き言葉1：話し言葉の特徴</p> <p>第 12回 話し言葉と書き言葉2：書き言葉の特徴</p> <p>第 13回 コミュニケーションの失敗：会話の意図</p> <p>第 14回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（70%），授業内課題の成績（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 108		担当者	小亀 拓也	
	日本語学講読Ⅱ		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の方言（学）に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらおう。</p> <p>【到達目標】方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方の説明</p> <p>第 2回 方言区画</p> <p>第 3回 東西対立分布，周圏論的分布</p> <p>第 4回 逆周圏論的分布</p> <p>第 5回 言語変化の要因</p> <p>第 6回 方言タイプの分布，母音の地域差</p> <p>第 7回 東京弁アクセント，京都弁アクセント</p> <p>第 8回 「-3の規則」，鹿児島弁アクセント①</p> <p>第 9回 鹿児島弁アクセント②</p> <p>第 10回 鹿児島弁イントネーション</p> <p>第 11回 鹿児島弁の終助詞</p> <p>第 12回 方言と漫才</p> <p>第 13回 共通語化の進行，方言と共通語の使い分け</p> <p>第 14回 研究発表準備</p> <p>第 15回 研究発表</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んてくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）（50%），小テストの成績（40%），研究発表の成績（10%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 109			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら、日本語学（特に音声・音韻・文法）に対する理解をさらに深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 110			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら、日本語学（特に音声・音韻・文法）に対する理解をさらに深める。適切にレポートを書くことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を確認，担当者を決める。</p> <p>第 2回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 111			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら、日本語学（特に音声・音韻・文法）に対する理解をさらに深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 112			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅳ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を定める。</p> <p>第 2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当）</p> <p>第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当）</p> <p>第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当）</p> <p>第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当）</p> <p>第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当）</p> <p>第 8回 卒論中間報告（2年生）</p> <p>第 9回 役割語①（2年生担当）</p> <p>第 10回 役割語②（2年生担当）</p> <p>第 11回 談話分析（1年生）</p> <p>第 12回 会話分析（1年生）</p> <p>第 13回 卒論計画発表（1年生）</p> <p>第 14回 卒論発表練習（2年生）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 113		担当者	楊 虹	
	日本語学演習V		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。</p> <p>第 2回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 レポート作成指導①</p> <p>第 6回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 レポート作成指導②</p> <p>第 8回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 レポート作成指導③</p> <p>第 11回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 レポート作成指導④</p> <p>第 13回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	期末レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 114			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を定める。</p> <p>第 2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当）</p> <p>第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当）</p> <p>第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当）</p> <p>第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当）</p> <p>第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当）</p> <p>第 8回 卒論中間報告（2年生）</p> <p>第 9回 役割語①（2年生担当）</p> <p>第 10回 役割語②（2年生担当）</p> <p>第 11回 談話分析（1年生）</p> <p>第 12回 会話分析（1年生）</p> <p>第 13回 卒論計画発表（1年生）</p> <p>第 14回 卒論発表練習（2年生）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 115			担当者	小亀 拓也
	日本語表現法			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（特に文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 ことば（特に文章表現）によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。</p> <p>【到達目標】 口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：自己紹介</p> <p>第 2回 メール の 書き方（講義編）</p> <p>第 3回 メール の 書き方（添削編）</p> <p>第 4回 敬語①（敬語の5分類）</p> <p>第 5回 敬語②（基本的な運用）</p> <p>第 6回 敬語③（二重敬語と敬語連結）</p> <p>第 7回 適切な日本語の運用（ラ抜き言葉など）</p> <p>第 8回 中間試験</p> <p>第 9回 ディスカッションの作法と実践</p> <p>第 10回 ディベートの作法と実践</p> <p>第 11回 レポートの書き方①</p> <p>第 12回 レポートの書き方②</p> <p>第 13回 レポートの書き方③</p> <p>第 14回 レポートの執筆</p> <p>第 15回 レポートの提出・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回課題を課す。また、毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	レポート（20%）、小テスト（30%）、中間試験（20%）、課題（30%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 116			担当者	小亀 拓也
	日本語表現演習			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらおう。この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 文章の構造（「論」と「例」①）</p> <p>第 2回 文章の構造（「論」と「例」②）</p> <p>第 3回 文章の構造（対比）</p> <p>第 4回 文章の構造（類比）</p> <p>第 5回 文章の構造（因果）</p> <p>第 6回 パラグラフライティングの基礎①（雑メモとパラグラフメモ）</p> <p>第 7回 パラグラフライティングの基礎②（雑メモ→パラグラフメモの実践）</p> <p>第 8回 パラグラフライティングの基礎③（中心文について）</p> <p>第 9回 パラグラフライティングの基礎④（中心文トレーニング）</p> <p>第 10回 パラグラフライティングの基礎⑤（支持文について）</p> <p>第 11回 パラグラフライティングの基礎⑥（支持文トレーニング）</p> <p>第 12回 課題レポートの作成</p> <p>第 13回 課題レポートの提出</p> <p>第 14回 プレゼンテーションの基本①（目的と態度）</p> <p>第 15回 プレゼンテーションの基本②（スライドのデザインと制作）</p>				
授業外学習 （予習・復習）	毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	成果資料の出来（50%）、小テスト（30%）、授業中の発言・コメント（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 117			担当者	楊 虹
	対照言語学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方</p> <p>第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示</p> <p>第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形</p> <p>第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較①</p> <p>第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較②</p> <p>第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較①</p> <p>第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較②</p> <p>第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較①</p> <p>第 10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較②</p> <p>第 11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較①</p> <p>第 12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較②</p> <p>第 13回 発表準備</p> <p>第 14回 学生による発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%，レポート：40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 118		担当者	木戸 裕子	
	日本文学講義 I		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】紫式部と一条朝の女房達</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを辛辣に批判している。また、その他の同僚女房についても赤染衛門や和泉式部について長所や短所を交えて批評している。自分自身については漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。『紫式部日記』の記述と、それ以外の史料から見て取れる彼女たちの実態はどのように違うのか、又は同じなのか。紫式部と周囲の女房達について検討し、平安中期の女性の生き方について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。 平安時代の女性の生き方を考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシック『紫式部日記』角川ソフィア文庫 上村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』新典社 久保木寿子『和泉式部 実存を見つめる』新典社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：『紫式部日記』に見る女房評</p> <p>第 2回 紫式部（1）：紫式部の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 3回 紫式部（2）：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第 4回 紫式部（3）：源氏物語</p> <p>第 5回 清少納言（1）：清少納言の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 6回 清少納言（2）：『枕草子』随想的章段に見る清少納言の仕事観</p> <p>第 7回 清少納言（3）：『枕草子』日記的章段に見る清少納言と定子</p> <p>第 8回 和泉式部（1）：和泉式部の系図と説話に見る評判</p> <p>第 9回 和泉式部（2）：『和泉式部日記』和泉式部は恋多き女か</p> <p>第 10回 和泉式部（3）：『和泉式部集』歌人和泉式部</p> <p>第 11回 赤染衛門（1）：赤染衛門の系図と赤染衛門良妻賢母説</p> <p>第 12回 赤染衛門（2）：『赤染衛門集』夫大江匡衡との関係</p> <p>第 13回 赤染衛門（3）：『赤染衛門集』代作する赤染衛門</p> <p>第 14回 赤染衛門（4）：『赤染衛門集』赤染衛門と清少納言、和泉式部</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）20%，レポート80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 119			担当者	木戸 裕子
	日本文学講読 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『万葉集』巻三、四の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『万葉集』は現存する日本最古の歌集だが、その中でも巻三、巻四は巻一・二に次いで古い時代の歌が収録されており、また、勅撰集の性質の強い巻と考えられている。この二巻の作品を読むことで、上代人にとっての歌とは何かを考えたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『万葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之校注『万葉集』(1) 岩波文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院 大谷雅夫『万葉集に会う』岩波新書</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 『万葉集』について (編者, 諸本, 万葉仮名など)</p> <p>第 2回 巻三, 巻四について。教員による模範演習</p> <p>第 3回 『万葉集』巻三輪読その1: 雑歌1</p> <p>第 4回 その2: 雑歌2</p> <p>第 5回 その3: 雑歌3</p> <p>第 6回 その4: 雑歌4</p> <p>第 7回 その5: 雑歌5</p> <p>第 8回 『万葉集』巻四輪読その1: 相聞1</p> <p>第 9回 その2: 相聞2</p> <p>第10回 その3: 相聞3</p> <p>第11回 その4: 相聞4</p> <p>第12回 その5: 挽歌1</p> <p>第13回 その6: 挽歌2</p> <p>第14回 その7: 挽歌3</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当 60%, レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 120		担当者	木戸 裕子	
	日本文学講読Ⅱ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。</p> <p>基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫, 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第 2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第 3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第 4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第 5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第 6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第 7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第 8回 六段2：二条の後の物語その5</p> <p>第 9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト20%，筆記試験80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 121		担当者	木戸 裕子	
	日本文学講読Ⅲ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「明石」を読む。「明石」は源氏物語五十四帖の十三番目の巻だが、前巻「須磨」で都を離れ須磨に退去した光源氏が、父桐壺帝の亡霊と住吉大社の夢告により明石に移り、そこで彼の人生に関わる女性に出会う重要な巻である。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村精一 編『首書 源氏物語 明石』和泉書院</p> <p>(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 明石』至文堂</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第 2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第 3回 「明石」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第 4回 「明石」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第 5回 「明石」輪読：その2</p> <p>第 6回 「明石」輪読：その4</p> <p>第 7回 「明石」輪読：その5</p> <p>第 8回 補足説明：紫式部と「明石」巻</p> <p>第 9回 「明石」輪読：その6</p> <p>第 10回 「明石」輪読：その7</p> <p>第 11回 「明石」輪読：その8</p> <p>第 12回 「明石」輪読：その9</p> <p>第 13回 「明石」輪読：その10</p> <p>第 14回 「明石」輪読：その11</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当 50%，筆記試験 50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 122		担当者	木戸 裕子	
	日本文学演習 I		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習 I と2年生の日本文学演習 III を合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習 II と同じく『嵯峨本伊勢物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第 2 回 グループワーク 1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方</p> <p>第 3 回 グループワーク 2：翻字と解釈の実習</p> <p>第 4 回 グループワーク 3：翻字と解釈の実習その 2</p> <p>第 5 回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第 6 回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第 7 回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第 8 回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第 9 回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第 10 回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第 11 回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第 12 回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第 13 回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第 14 回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	<p>日本文学演習 I 担当時外発言 20%，レポート 80%</p> <p>日本文学演習 III 担当時外発言 20%，担当発表 80%</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 123			担当者	木戸 裕子
	日本文学演習Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『嵯峨本伊勢物語』を読む。嵯峨本伊勢物語は，1年前期の講読Ⅱで扱った作品だが，講読Ⅱでは読み切れなかった章段を学生の担当で読む。平安時代における，物語と和歌の関係を考えるとともに，平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント，『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認</p> <p>第 2回 嵯峨本伊勢物語について：</p> <p>第 3回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第 4回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第 5回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第 6回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第 7回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第 8回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第 9回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第10回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第11回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第12回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第13回 嵯峨本伊勢物語を読む：11</p> <p>第14回 嵯峨本伊勢物語を読む：12</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	担当発表 80%，担当時以外の発言（質問，意見など） 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 124		担当者	木戸 裕子	
	日本文学演習Ⅲ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『嵯峨本伊勢物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方</p> <p>第3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習</p> <p>第4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2</p> <p>第5回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第6回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第7回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第8回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第9回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第10回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第11回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第12回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第13回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第14回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	<p>日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20%，レポート 80%</p> <p>日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20%，担当発表 80%</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 125			担当者	竹本 寛秋
	日本文学史・近代Ⅰ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史の変遷を理解する。</p> <p>【概要】「日本文学史・近代Ⅰ」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書）</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か</p> <p>第 2回 概論：「近代」とは何か —夏目漱石，森鷗外，北村透谷—</p> <p>第 3回 概論：「小説」概念の成立 —坪内逍遙—</p> <p>第 4回 明治の文学1：近世と近代文学 —戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説—</p> <p>第 5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 —速記，表記の改革，文体の改革—</p> <p>第 6回 明治の文学3：詩歌の改良 —新体詩の出現—</p> <p>第 7回 明治の文学4：言文一致小説 —二葉亭四迷—</p> <p>第 8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) —尾崎紅葉，硯友社の文学—</p> <p>第 9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) —正岡子規—</p> <p>第 10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 —森鷗外，島崎藤村—</p> <p>第 11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) —島崎藤村—</p> <p>第 12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) —田山花袋—</p> <p>第 13回 明治の文学10：反自然主義の小説 —夏目漱石—</p> <p>第 14回 明治の文学11：口語自由詩 —川路柳虹，相馬御風—</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修，隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 126			担当者	竹本 寛秋
	日本文学史・近代Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書）</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 —メディアの変革と「文学」—</p> <p>第 2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 —白樺派，新思潮派—</p> <p>第 3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立</p> <p>第 4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩</p> <p>第 5回 昭和の文学2：主知主義文学</p> <p>第 6回 昭和の文学3：プロレタリア文学</p> <p>第 7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 —転向文学，日本浪漫派，四季派—</p> <p>第 8回 昭和の文学5：戦争と文学</p> <p>第 9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 —戦後文学の出発—</p> <p>第 10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 —第三の新人の登場—</p> <p>第 11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 —三島由紀夫の死—</p> <p>第 12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 —村上龍，村上春樹—</p> <p>第 13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 —塚本邦雄，岡井隆，寺山修司—</p> <p>第 14回 現代の文学：現代文学のゆくえ</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修，隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 127			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講義Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマで読み解く詩</p> <p>【概要】明治より現在に至る近現代詩を、様々なテーマを切り口にして読解する。実際の作品を読み解きながら、表現と時代に深いつながりがあることを理解し、多様な日本の「詩」について、考察できる能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』（思潮社）、他授業中に紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第 2回 恋愛</p> <p>第 3回 音楽</p> <p>第 4回 結婚</p> <p>第 5回 イメージ・言語実験</p> <p>第 6回 動物</p> <p>第 7回 女性</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 韻律</p> <p>第10回 こども</p> <p>第11回 戦争</p> <p>第12回 世界認識</p> <p>第13回 都市・機械</p> <p>第14回 動物</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読。				
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード（40%）、レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 128			担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読Ⅳ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学の中の仏教～地獄を中心に～</p> <p>【概要】仏教伝来から江戸時代に至るまで仏教は文学にどのような影響を与えたのかについて、説話文学や江戸時代の「地獄」を舞台とした物語作品を通して考える。</p> <p>【到達目標】江戸時代に至るまでの仏教思想について正しく理解する。仏教が影響を与えた文学作品について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入 文学史における時代区分</p> <p>第 2回 近世文学・近世文学の特質について</p> <p>第 3回 仏教について (概説)</p> <p>第 4回 『日本霊異記』の地獄</p> <p>第 5回 源信『往生要集』の世界</p> <p>第 6回 『今昔物語集』</p> <p>第 7回 中世の無常観</p> <p>第 8回 室町時代の仏教物語</p> <p>第 9回 奇想の江戸時代『義経地獄破』 1</p> <p>第 10回 奇想の江戸時代『義経地獄破』 2</p> <p>第 11回 奇想の江戸時代『義経地獄破』 3</p> <p>第 12回 『小夜嵐』 1</p> <p>第 13回 『小夜嵐』 2</p> <p>第 14回 風来山人『根無草』 1</p> <p>第 15回 風来山人『根無草』 2</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。				
成績評価の方法	期末試験				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 129			担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読V			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】薩摩の滑稽本『夢中の夢』を読み解く</p> <p>【概要】本授業では江戸後期、薩摩の人が書いたと推定される滑稽本（談義本）『夢中の夢』の成立について考察しながら、本文を読み解く。本作品は地獄・極楽を舞台として宇宗左衛門という狂言回しを設定して、南九州の方言や風俗、自然などととも、江戸の風俗が盛り込んだ作品となっている。</p> <p>【到達目標】江戸後期の言語・風俗・習慣などについて正しく認識し、作品の意図や江戸時代の笑いの性格について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 是枝勇一編『薩摩奇談地獄極楽 夢中夢物語』（大正6年、私家版）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 地獄ものの草紙について</p> <p>第 2回 『夢中の夢』の諸本</p> <p>第 3回 作品講読（発端）</p> <p>第 4回 作品講読（極楽の番所）</p> <p>第 5回 作品講読（極楽への道中）</p> <p>第 6回 作品講読（極楽の城下と「江戸」）</p> <p>第 7回 作品講読（宇宗左衛門の失敗）</p> <p>第 8回 作品講読（弁慶の語り1）</p> <p>第 9回 作品講読（弁慶の語り2）</p> <p>第10回 作品講読（弁慶の語り3）</p> <p>第11回 作品講読（道中触れのパロディ）</p> <p>第12回 作品講読（極楽から地獄への道中）</p> <p>第13回 作品講読（三助の説教1）</p> <p>第14回 作品講読（三助の説教2）</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。				
成績評価の方法	期末試験				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 130			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講読VI			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する方法を学び、小冊子の編集を通して他者に伝達する方法を学ぶ。</p> <p>【概要】日本近代の小説を題材として、様々な方法論を使って読み解く。物語構造、小説の語り（ナラティブ）、時代背景の調査、都市空間論、間テキスト性などについて学び、具体的な小説に即して読みを広げる。その上で、その学びの成果を編集して小冊子を作成する。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p> <p>具体的な小説テキストについて、その方法論を適用できる。学びの成果を、わかりやすくまとめて伝えることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 注釈作業について</p> <p>第 3回 注釈作業：小説テキストでの実践</p> <p>第 4回 時代背景の調査について</p> <p>第 5回 時代背景の調査：小説テキストでの実践</p> <p>第 6回 物語構造：理論の学習</p> <p>第 7回 物語構造：小説テキストへの適用</p> <p>第 8回 小説テキストの要約作成</p> <p>第 9回 小冊子作成の準備作業（1）</p> <p>第 10回 語り（ナラティブ）：理論の学習</p> <p>第 11回 語り（ナラティブ）：小説テキストへの応用</p> <p>第 12回 都市空間論、間テキスト性：理論の学習</p> <p>第 13回 都市空間論、間テキスト性：理論の学習：小説テキストへの適用</p> <p>第 14回 小冊子作成の準備作業（2）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読と検討。小冊子作成の準備。				
成績評価の方法	授業での活動（40%）、最終成果物の作成（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 131			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講読Ⅶ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々に蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。テキストの内容をわかりやすくまとめたスライドを作成し、発表する活動を行う。</p> <p>【到達目標】文学研究に必要となる、テキスト読解の方法を実践できる。テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い</p> <p>第 2回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化</p> <p>第 3回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」</p> <p>第 4回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り</p> <p>第 5回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景</p> <p>第 6回 井伏鱒二「朽助のみる谷間」：本文校異</p> <p>第 7回 川端康成「水月」：三人称の語り</p> <p>第 8回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史</p> <p>第 9回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題</p> <p>第 10回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵</p> <p>第 11回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題</p> <p>第 12回 倉田由美子「暗い旅」：論争について</p> <p>第 13回 資料調査について</p> <p>第 14回 文学史について</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読と検討。発表の準備。				
成績評価の方法	授業での発表・活動（40%）、レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 132			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習Ⅳ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。テキストの中から対象を選び発表する。</p> <p>【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠に基づき発表できる。テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方，担当者の決定</p> <p>第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法，資料の検討方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第10回 口頭発表（6）</p> <p>第11回 口頭発表（7）</p> <p>第12回 口頭発表（8）</p> <p>第13回 口頭発表（9）</p> <p>第14回 口頭発表（10）</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集，資料作成，発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%），討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 133			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習V			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるような言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，展開できる。様々な文学理論を理解し，発表に生かせる。建設的にディスカッションできる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定，文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第10回 口頭発表（6）</p> <p>第11回 口頭発表（7）</p> <p>第12回 口頭発表（8）</p> <p>第13回 口頭発表（9）</p> <p>第14回 論文作成の方法について</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集，資料作成，発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 134			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠に基づき発表できる。テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方，担当者の決定</p> <p>第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法，資料の検討方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第10回 口頭発表（6）</p> <p>第11回 口頭発表（7）</p> <p>第12回 口頭発表（8）</p> <p>第13回 口頭発表（9）</p> <p>第14回 口頭発表（10）</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集，資料作成，発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%），討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 135			担当者	三嶽 公子
	南九州の文学			授業外対応	質問、個人指導、いつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】南九州（鹿児島県 熊本県 宮崎県）を舞台とした文学作品を読むことで、土地と人間の深いかかわりについて学ぶ。そのうえで、地域や人を大切にすることを学ぶ。</p> <p>【概要】南九州を舞台とした文学作品を丁寧に読みつつ、自然災害や戦争、廃仏毀釈などの破壊からいかに再生していくかを辿る。</p> <p>【到達目標】南九州という土地のもつ再生力を知る。エネルギーの高い土地のパワーを感じ、希望をもって生きることにつなげる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に関連資料を配布する</p> <p>(2) 「みたけきみこと読むかごしまの文学」(K&Yカンパニー)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 南九州全体を見渡す 「やさしさかごしま」(作詞・岡田哲也)「鹿児島県民の歌」の解説</p> <p>第 2回 与論島 森葉子「アイランド」</p> <p>第 3回 沖永良部島 一色次郎「青幻記」</p> <p>第 4回 奄美 島尾敏雄「島の果て」</p> <p>第 5回 屋久島文学散歩 椋嶋十「片耳の大鹿」 山尾三省「アニミズムという希望」 林 芙美子「浮雲」</p> <p>第 6回 桜島文学散歩 なぎさ遊歩道句碑巡り</p> <p>第 7回 坊津 梅崎春生「幻化」</p> <p>第 8回 向田邦子「細長い海」</p> <p>第 9回 紫尾山 梨木香歩「海うそ」</p> <p>第 10回 伊佐 海音寺潮五郎「二本の銀杏」</p> <p>第 11回 鹿屋 川端康成「生命の樹」</p> <p>第 12回 志布志 種田山頭火の俳句</p> <p>第 13回 熊本 水俣 石牟礼道子「苦海浄土」</p> <p>第 14回 宮崎 若山牧水の短歌</p> <p>第 15回 まとめ レポートの書き方についての指導</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に配るプリント類に基づいて、取り上げた作品、またその関連資料を読むこと。授業で取り上げるのは作品の一部なので、その作品を全部読む。				
成績評価の方法	授業中に行う小テスト+期末レポート				
実務経験について	NPO法人月の舟自由大学・学長として現在活動中。				

授業科目	授業番号： 136			担当者	土肥 克己
	中国文学史 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 137			担当者	土肥 克己
	中国文学史Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 楽府 (1)</p> <p>第 2回 楽府 (2)</p> <p>第 3回 楽府 (3)</p> <p>第 4回 五言詩 (1)</p> <p>第 5回 五言詩 (2)</p> <p>第 6回 五言詩 (3)</p> <p>第 7回 志怪小説 (1)</p> <p>第 8回 志怪小説 (2)</p> <p>第 9回 志怪小説 (3)</p> <p>第 10回 近体詩 (1)</p> <p>第 11回 近体詩 (2)</p> <p>第 12回 近体詩 (3)</p> <p>第 13回 伝奇 (1)</p> <p>第 14回 伝奇 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 138			担当者	土肥 克己
	中国文学講読 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 漢文の文法</p> <p>【概要】 短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 基本文型 (1)</p> <p>第 3回 基本文型 (2)</p> <p>第 4回 基本文型 (3)</p> <p>第 5回 基本文型 (4)</p> <p>第 6回 基本文型 (5)</p> <p>第 7回 基本文型 (6)</p> <p>第 8回 副詞</p> <p>第 9回 基本文型の連続</p> <p>第 10回 フレーズ (1)</p> <p>第 11回 フレーズ (2)</p> <p>第 12回 フレーズ (3)</p> <p>第 13回 フレーズ (4)</p> <p>第 14回 フレーズ (5)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%， 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 139			担当者	土肥 克己
	中国文学講読Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 漢字 (1)</p> <p>第 3回 漢字 (2)</p> <p>第 4回 漢字 (3)</p> <p>第 5回 漢字 (4)</p> <p>第 6回 漢字 (5)</p> <p>第 7回 漢文 (1)</p> <p>第 8回 漢文 (2)</p> <p>第 9回 漢文 (3)</p> <p>第 10回 漢文学 (1)</p> <p>第 11回 漢文学 (2)</p> <p>第 12回 中国文学 (1)</p> <p>第 13回 中国文学 (2)</p> <p>第 14回 中国文学 (3)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 140			担当者	土肥 克己
	中国文学演習 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 白居易の作品を読む</p> <p>【概要】 白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】 中国前近代の社会現象を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 講読 (1)</p> <p>第 3回 講読 (2)</p> <p>第 4回 講読 (3)</p> <p>第 5回 講読 (4)</p> <p>第 6回 講読 (5)</p> <p>第 7回 講読 (6)</p> <p>第 8回 講読 (7)</p> <p>第 9回 講読 (8)</p> <p>第 10回 講読 (9)</p> <p>第 11回 講読 (10)</p> <p>第 12回 講読 (11)</p> <p>第 13回 講読 (12)</p> <p>第 14回 講読 (13)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 141			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島県の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文献調査の基礎 (1)</p> <p>第 3回 文献調査の基礎 (2)</p> <p>第 4回 論文の読み方</p> <p>第 5回 石碑調査 (1)</p> <p>第 6回 石碑調査 (2)</p> <p>第 7回 石碑調査 (3)</p> <p>第 8回 石碑調査 (4)</p> <p>第 9回 石碑調査 (5)</p> <p>第 10回 プレゼン練習 (1)</p> <p>第 11回 プレゼン練習 (2)</p> <p>第 12回 プレゼン練習 (3)</p> <p>第 13回 プレゼン練習 (4)</p> <p>第 14回 プレゼン練習 (5)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 142			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅲ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 論文整理と発表 (1) 第 3回 論文整理と発表 (2) 第 4回 論文整理と発表 (3) 第 5回 論文整理と発表 (4) 第 6回 論文整理と発表 (5) 第 7回 論文整理と発表 (6) 第 8回 論文整理と発表 (7) 第 9回 論文整理と発表 (8) 第 10回 論文整理と発表 (9) 第 11回 論文整理と発表 (10) 第 12回 論文整理と発表 (11) 第 13回 論文整理と発表 (12) 第 14回 論文整理と発表 (13) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。				
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 143			担当者	専攻教員全員																																																																											
	卒業研究Ⅰ・Ⅱ			授業外対応																																																																												
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]																																																																											
	2年	前期, 後期	各1単位	必修	演習方式																																																																											
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します</p> <p>【到達目標】授業中に紹介します</p>																																																																															
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2)</p>																																																																															
授業 スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>I</td> <td>オリエンテーション：卒業論文の進め方</td> <td>II</td> <td>論文作成：その1</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td></td> <td>論文作成：その1</td> <td></td> <td>論文作成：その2</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td></td> <td>論文作成：その2</td> <td></td> <td>論文作成：その3</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td></td> <td>論文作成：その3</td> <td></td> <td>論文作成：その4</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td></td> <td>論文作成：その4</td> <td></td> <td>論文作成：その5</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td></td> <td>論文作成：その5</td> <td></td> <td>論文作成：その6</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td></td> <td>論文作成：その6</td> <td></td> <td>論文作成：その7</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> <td>論文作成：その7</td> <td></td> <td>論文作成：その8</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td></td> <td>論文作成：その8</td> <td></td> <td>論文作成：その9</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td></td> <td>論文作成：その9</td> <td></td> <td>論文作成：その10</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> <td>論文作成：その10</td> <td></td> <td>論文作成：その11</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td></td> <td>論文作成：その11</td> <td></td> <td>論文作成：その12</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> <td>論文作成：その12</td> <td></td> <td>論文作成：その13</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td></td> <td>論文作成：その13</td> <td></td> <td>論文作成：その14</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td></td> <td>論文作成：まとめ</td> <td></td> <td>論文作成：まとめ</td> </tr> </table>					第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1	第2回		論文作成：その1		論文作成：その2	第3回		論文作成：その2		論文作成：その3	第4回		論文作成：その3		論文作成：その4	第5回		論文作成：その4		論文作成：その5	第6回		論文作成：その5		論文作成：その6	第7回		論文作成：その6		論文作成：その7	第8回		論文作成：その7		論文作成：その8	第9回		論文作成：その8		論文作成：その9	第10回		論文作成：その9		論文作成：その10	第11回		論文作成：その10		論文作成：その11	第12回		論文作成：その11		論文作成：その12	第13回		論文作成：その12		論文作成：その13	第14回		論文作成：その13		論文作成：その14	第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ
第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1																																																																												
第2回		論文作成：その1		論文作成：その2																																																																												
第3回		論文作成：その2		論文作成：その3																																																																												
第4回		論文作成：その3		論文作成：その4																																																																												
第5回		論文作成：その4		論文作成：その5																																																																												
第6回		論文作成：その5		論文作成：その6																																																																												
第7回		論文作成：その6		論文作成：その7																																																																												
第8回		論文作成：その7		論文作成：その8																																																																												
第9回		論文作成：その8		論文作成：その9																																																																												
第10回		論文作成：その9		論文作成：その10																																																																												
第11回		論文作成：その10		論文作成：その11																																																																												
第12回		論文作成：その11		論文作成：その12																																																																												
第13回		論文作成：その12		論文作成：その13																																																																												
第14回		論文作成：その13		論文作成：その14																																																																												
第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ																																																																												
授業外学習 (予習・復習)																																																																																
成績評価の方法	<p>I：中間報告 100%</p> <p>II：卒業論文 75%，口頭発表 25%</p>																																																																															
実務経験について																																																																																

授業科目	授業番号： 144			担当者	小林 朋子
	比較文化			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多文化主義で学ぶ比較文化論</p> <p>【概要】文化はそれぞれの人が育った環境や受けた教育、時代や社会的な位置によって多種多様である。本講義は、「主流文化」とは何かという問いから始まり、サブカルチャー、ジェンダー、メディア、エスニシティ、ナラトロジーなどをテーマに、それぞれの文化において、誰が何のためにどんな立場でその文化を担っているのか、社会・歴史的に読み解く文脈把握力を養う。それぞれのテーマに関する日本語および英語による文献（英語で書かれた文学作品を含む）を書き手・読み手双方の立場を考察して読解することで、文化・文学批評の基礎的な方法論も学ぶ。*英</p> <p>【到達目標】他言語を話す人々の価値観を文化・文学を通して知ることができる。文化・文学批評の基礎的な方法を理解している。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』（松柏社）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション</p> <p>第 2回 「主流文化」とは何か1</p> <p>第 3回 「主流文化」とは何か2</p> <p>第 4回 翻訳文化から考える比較文化</p> <p>第 5回 マイノリティとマジョリティ1</p> <p>第 6回 マイノリティとマジョリティ2</p> <p>第 7回 お伽噺で学ぶ比較文化論：サブカルチャーの行方</p> <p>第 8回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー1</p> <p>第 9回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー2</p> <p>第10回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー3</p> <p>第11回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー1</p> <p>第12回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー2</p> <p>第13回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー3</p> <p>第14回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー4</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度 (30%)、小レポート (20%)、最終レポート (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 145			担当者	小林 朋子
	米文学史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。作品に使用されて</p> <p>【到達目標】アメリカ文学史上、代表的な作品についてその内容を理解している。アメリカ文学が描いてきたアメリカ社会・文化について理解を深め、その知見に基づいて多角的に現代のアメリカ文化を理解できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第 2回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学 (1)</p> <p>第 3回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学 (2)</p> <p>第 4回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興</p> <p>第 5回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛 (1)</p> <p>第 6回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛 (2)</p> <p>第 7回 「金めつき時代」ーリアリズムの勃興</p> <p>第 8回 危機と革新ーリアリズムの展開</p> <p>第 9回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション</p> <p>第 10回 世界へ向けてーモダニズムの文学</p> <p>第 11回 戦後文学の出発ー第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第 12回 自我をつくろうー人種系文学 (1)</p> <p>第 13回 自我をつくろうー人種系文学 (2)</p> <p>第 14回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度 (40%)、小レポート (20%)、最終レポート (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 146		担当者	木戸 裕子	
	読書と豊かな人間性		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考える。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。</p> <p>様々な読書活動の方法を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院, 小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会, 渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会,</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第 2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第 3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第 4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境，地域との連携</p> <p>第 5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第 6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第 7回 小学校の読書：物語を楽しみ，言葉をはぐくむ</p> <p>第 8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第 9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第 10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第 11回 読書活動1：読書案内，ブックトーク，ブックリスト</p> <p>第 12回 読書活動2：読み聞かせ，読みあい，ストーリーテリング</p> <p>第 13回 読書活動3：パネルシアター，紙芝居</p> <p>第 14回 実演1：ブックトーク，読み聞かせ，読みあいなど</p> <p>第 15回 実演2：ブックトーク，読み聞かせ，読みあいなど</p>				
授業外学習 (予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み，読書記録を取るようにする。				
成績評価の方法	課題提出 (50%) と，授業第 14 回，15 回での実演 (50%)				
実務経験について	なし				

(注)司書教諭資格に関する科目

授業科目	授業番号： 147		担当者	竹本 寛秋	
	情報メディアの活用		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 情報社会の系譜</p> <p>第 2回 情報検索の手法</p> <p>第 3回 インターネットの系譜</p> <p>第 4回 情報社会の進展と学習観の変遷</p> <p>第 5回 学校情報化の変遷と現状</p> <p>第 6回 情報社会と著作権 1：著作権の理解</p> <p>第 7回 情報社会と著作権 2：著作権の制限</p> <p>第 8回 情報社会と著作権 3：デジタル化の進行と著作権</p> <p>第 9回 情報セキュリティ</p> <p>第 10回 インターネットと情報検索、情報探索の技法</p> <p>第 11回 情報探索の実践</p> <p>第 12回 ICT を活用した授業</p> <p>第 13回 ネットワーク運用</p> <p>第 14回 演習 1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション</p> <p>第 15回 演習 2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション</p>				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題 (60%)、期末試験 (40%)				
実務経験について	なし				

(注)司書教諭資格に関する科目

授業科目	授業番号： 148			担当者	川畑 和明
	書道 I			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における書写教育の把握と楷書・行書の学習</p> <p>【概要】 書道は、文字を素材とする芸術である。本講座では、まず書体の変遷について概要を学ぶとともに、中学校の書写教育の概観を捉える。そして、中学校書写の楷書・行書の教材を練習し、その執筆法を習得することにより、書写学習の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】 中学校における書写教育の把握と楷書・行書の書き方を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊・中学国語科書写教科書</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 書について（書体の特徴とその変遷）、中学校における書写教育</p> <p>第 2回 楷書の特徴とその書法（基本点画 1）</p> <p>第 3回 楷書の特徴とその書法（基本点画 2）</p> <p>第 4回 楷書作品制作</p> <p>第 5回 楷書に調和する仮名</p> <p>第 6回 楷書と仮名の調和</p> <p>第 7回 楷書（硬筆）</p> <p>第 8回 行書の特徴とその書法</p> <p>第 9回 行書の特徴とその書法</p> <p>第 10回 行書作品制作</p> <p>第 11回 行書に調和する仮名</p> <p>第 12回 行書と仮名の調和</p> <p>第 13回 行書（硬筆）</p> <p>第 14回 作品制作</p> <p>第 15回 作品制作，学習のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 149			担当者	川畑 和明
	書道Ⅱ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書・仮名の古典学習</p> <p>【概要】中学校書写の楷書・行書の教材と関連しながら、楷書・行書・仮名の古典学習を通して、それぞれの筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の楷書・行書の書き方を、古典学習を通し深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 中学校における書写教育</p> <p>第 2回 楷書の古典（基本点画）</p> <p>第 3回 楷書の古典（九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑）</p> <p>第 4回 楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑）</p> <p>第 5回 楷書の古典（造像記）</p> <p>第 6回 行書の古典（基本点画）</p> <p>第 7回 行書の古典（蘭亭序）</p> <p>第 8回 行書の古典（争坐位文稿他）</p> <p>第 9回 行書の古典（蜀素帖他）</p> <p>第 10回 仮名の書（いろは单体）</p> <p>第 11回 仮名の書（連綿）</p> <p>第 12回 仮名の書（高野切）</p> <p>第 13回 仮名の書（三色紙）</p> <p>第 14回 作品制作</p> <p>第 15回 作品制作，学習のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 150			担当者	川畑 和明
	書道Ⅲ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の古典学習</p> <p>【概要】漢字の書には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体がある。書道Ⅰ・Ⅱで日常生活において多用される楷書と行書を学習した。書道Ⅲでは、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、書の幅広い技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】書道Ⅰ・Ⅱの楷書・行書学習の発展として、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、それぞれの筆法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 草書の特徴とその書法 第 2回 草書の古典（書譜） 第 3回 草書の古典（十七帖） 第 4回 草書の古典（王鐸・傅山等） 第 5回 作品制作 第 6回 篆書の特徴とその書法 第 7回 篆書の古典（泰山刻石） 第 8回 篆書の古典（甲骨文・金文） 第 9回 篆書の古典（帛書・木簡） 第 10回 隸書の特徴とその書法 第 11回 隸書の古典（曹全碑・礼器碑） 第 12回 隸書の古典（古隸） 第 13回 隸書の古典（木簡） 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作, 学習のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

授業科目	授業番号： 151			担当者	川畑 和明
	書道Ⅳ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】書作品制作</p> <p>【概要】書道学習の集大成として、書作品制作にチャレンジする。漢字作品、仮名作品、漢字仮名交じり作品の制作を通して書の楽しさと魅力を味わうことを目的とする。また、自分の名を刻した印を制作し、作品に押印する。</p> <p>【到達目標】書作品の制作を通して、書への興味・関心を高め、その技法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 作品制作の計画</p> <p>第 2回 篆刻（自用印の制作）</p> <p>第 3回 篆刻（自用印の制作）</p> <p>第 4回 篆刻（自用印の制作）</p> <p>第 5回 漢字作品制作</p> <p>第 6回 漢字作品制作</p> <p>第 7回 漢字作品制作</p> <p>第 8回 漢字作品制作</p> <p>第 9回 仮名作品制作</p> <p>第 10回 仮名作品制作</p> <p>第 11回 仮名作品制作</p> <p>第 12回 仮名作品制作</p> <p>第 13回 漢字仮名交じり作品制作</p> <p>第 14回 漢字仮名交じり作品制作</p> <p>第 15回 漢字仮名交じり作品制作、学習のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				